



順天堂大学薬学部微生物・免疫学分野

山地 俊之

日本生化学会会員の皆様、多くの方ははじめましてかと思いますが、2024年4月1日に国立感染症研究所より、新設の順天堂大学薬学部微生物・免疫学分野教授として赴任致しました山地俊之と申します。順天堂大学薬学部は、まさにこの4月初めての学生が入学してきました出来たてほやほやの学部でして、教員も様々な大学や研究機関から新たに来ておりますので、一から学生と共に力を合わせて薬学部を作り上げようとしております。しかも薬学部の研究棟は2025年初旬完成予定でして(写真1)、そこから研究環境を整備していくこととなりますので、現在は期待半分、不安半分といったところです。

私は2000年に京都大学大学院薬学研究科の博士課程を修了後、理化学研究所フロンティア研究システム、カリフォルニア大学サンフランシスコ校を経て、2006年国立感染症研究所に入所しました。以降2024年3月まで研究所勤務でしたので、初めての本格的な大学勤務となります。順天堂大学というと、東京・お茶の水にあります医学部や医学部附属の順天堂医院、あるいはオリンピック選手を輩出しています千葉県東部のスポーツ健康科学部が有名ですが、薬学部は2年前に出来た医療科学部、1年前に出来た健康データサイエンス学部と共に、千葉県浦安市の日の出キャンパスにあります。東京ディズニーランドの隣の駅、京葉線新浦安駅からバスで10分、徒歩で25分くらいのところにありまして、建物の5階からは東京湾を一望することが出来ます(写真2)。まだこちらで研究が出来ておりませんが、疲れた夜には東京湾の夜景を見て癒やされたいと思っております。

これまで国立感染症研究所において、病原体の細胞感染におけるCRISPRゲノムワイドライブラリーを用いた宿主細胞因子の探索、及び生体膜糖鎖や脂質の代謝や病原体感染への影響について研究してきました。世界中でこれまで病原体感染に対する多くのCRISPRスクリーニングが行われてきましたが、かなりの割合で糖鎖や脂質がcriticalな因子として単離されています。今後益々糖鎖や脂質の感染症分野における注目度が増すのではないかと考えております。薬学部においても、引き続き様々なウイルスや細菌毒素に対する新規宿主細胞因子の探索、及び糖鎖や脂質の影響を解析しつつ、薬学部の環境を活かした研究へ展開していきたいと考えております。

順天大の薬学部は6年制のみですので、他の私学と同様、薬剤師国家試験の合格が学部としての大きな目標となります。従って薬剤師国家試験に向けた薬学教育の中で、いかに研究に興味を持ってもらうかが重要になります。大

きな悩みは、研究におけるマンパワー不足でして、学部生の研究室配属は2年後、大学院も先の話になります。現在助教及び他大学の博士課程の学生と一緒に研究を行っておりますが、是非共同研究で一緒に研究を行っていただける方がいらっしゃいましたら、ご一報ください！



写真1 完成間近の薬学部(10月)



写真2 5階から見える東京湾